## VTSJ　Step1
## アンケートから——受講者の方の声

---

### 1.VTSの理論的背景について

　本セミナーの目的の一つとして、VTS実践の骨組みを成す理論的背景を明らかにすることが挙げられる。この点については、

**「実践と理論をリンクした、VTSの原理を確認できた」**
**「理論から学ぶことができて系統立てて考えることができました」**
**「基本的な理論をみっちりと、そこにフィリップ・ヤノウィン氏の経験や想いのこもったメッセージも加わり、3日間ずっと頭を回転させ続ける濃密な時間を過ごしました」**
**「日々実践しながらも、それを検証する機会がなく「これでいいのか？」と自問自答する日々でしたが、理論から学ぶことができて系統立てて考えることができました」**

といった感想をはじめ、多くの受講者の方から「明解で、分かりよかった」「実践を支える理論を再確認できた」という旨の声を頂いた。また、それにとどまらず、

**「ハウゼンの美的発達についても興味がわいたので、また書物を探し学んでみようと思います」**
**「ハウゼン氏の文献に興味があります。よりくわしい内容のものがよみたいです（美的発達、ADIについて）」**

といった言葉にあるように、自発的な学習への機会としても捉えて頂いたようだ。

### 2.VTSの実践について

　理論的背景の解説の一方で、VTSで用いられる主要な3つの質問、ファシリテーターの役割の考察など、実践的な方法論についてもレクチャー（加えて、フィリップ氏によるVTSの実践）が行われた。例えば、

**「フィリップ氏の質問の受け答えや、VTSの問いかけのやり方は、非常に参考になった」**
**「実際にVTSを自分自身が受けながら、ファシリテーターの役割や、何を心がけて行うとよいのか考えるきっかけとなりました」**
**「3つの基本的な問いかけの具体的な説明、作品を選ぶ際のポイント、等々、実際にナビゲートするのに大いに参考になりました」**
**「「聴く」にしても「言い換える」にしても、それ自体は単純な所作でも、ある意図をもって行おうとするとこんなにも難解なものなのかと感じました」**
**「ファシリテーターとなるべき私たち自身の「心のバリア」や思い込みのようなものを、一旦なかったことにするのが非常に難しいと思う」**

等々のコメントを頂いた。理論的な理解のみならず、自身でのファシリテートに向けての「ステップ」としても本セミナーは企図されている。受講者の方から「実践に資する」「実践における課題点がみえた」との感想を得られたのは幸いであった。

(裏面へ続く）

**3.ワークショップなどについて**

本セミナーでは、講義形式のレクチャーに加え、体験的にVTSの理論/実践を学ぶ方法として、ワークショップ、ディスカッションなどが導入された。これらについては、

**「WSは、体験（実感）を伴った、つまり今現在の自分の経験や思考パターン、学びの蓄積を確認する最適なものであった」**
**「ワークショップやVTSを通して、私たち自身が「みて」「考えて」「言葉にする」体験をすることで、VTSの理論や手法が実際にどのような思考を引き出すのかを実体験として得られたと思います」**
**「ワークショップもVTSの理論を構成する要素を体感し、理解するためにピッタリで（しかも2つともとても楽しくて）ありがたかったです」**
**「ワークショップ（具体新書）をしたり、昆虫の写真を見てディスカッションを行った事で、「このように学習を進めればよいのか！」と新たな気づきであった」**
**「コミュニケーションのWSは、VTSの問いかけの意味、会話、対話をすることの意味を具体的に考えることができて有意義でした」**

といった感想をはじめ、立体的に構成されたカリキュラムが効果的であったとの声を多数頂いた。さらに、

**「VTSの基本理論に基づきながら、実際に参加者自身もVTSをVTSの方法で学んでいることに気づきました」**
**「セミナー自体がVTSであったと思います、本質を学ぶための学び方をディスカッションする場になっていたと思います」**

以上のような、本セミナーそれ自体が「VTS的」であり、開かれた学習環境であった、との意見も頂いた。

**4.次回以降のステップへむけて**

最後に、セミナー全体を踏まえての、次回以降への課題/展望などについて頂いた意見を挙げてみよう。

**「学校、そして美術館、さらには両者の連携でのお話ももらえると嬉しいです」**
**「鑑賞の授業と他教科での応用ということを、もっと整理すべきなのではないかと思いました」**
**「言語的素材（詩、文章）についてはどんなアプローチが可能なのか知りたいです」**
**「言語手だてがなかったり（……）ハンディーのある人たち、又はそういう人が入り混じっているグループでの事例を見たい、聴きたいです」**
**「学習集団に１人の訓練された導き役をつけることができない環境や美術作品に対する国民の歴史も鑑みた上でのStep2、Step3であれば大変おもしろく興味をもてます」「抽象画やインスタレーション、映像などになった場合、どのようなVTSができるのか」**
**「一度きりの体験（ギャラリートークや出前授業など）になる場合（……）より高い満足感を参加者が得ることができるようにするには、具体的にどのようにしたらよいのか、知りたいと思います」**

このように、幾つかピックアップしたものだけでも、受講者の方々によってVTS自体がまさに「批判的思考」によって受けとめられ、その発展可能性の萌芽が生成されはじめていることが伺える。
その他、ここには挙げきれない多様な意見を頂いた。今回のアンケートでの貴重な意見を元に、Step2、3に向けて生産的なフィードバックを起こすことができればと考えている。